

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター つくも幼児教室			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年 12月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日 ～ 2026年 2月 13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々なお子さんを幅広く受け入れている。利用希望がある方については、受け入れることを基本としている。	職員数を確保し、研修等を積み重ねて、様々なお子さんの支援に対応できるようにしている。	事業所内研修を引き続き充実させることや、外部研修を受講することによって、職員の支援スキルを向上させて、充実したお子さんの支援ができるようにしていく。
2	発達支援センターとして通所だけでなく、相談や保育所等訪問を併用しながら、全体的なお子さんの成長発達を促している。	それぞれの事業の職員が連携したり情報共有することによって、様々な角度からお子さんやご家庭の支援をしていくようにしている。	圏域の他の事業所ともさらに連携や情報共有に努めて、複数の見解でお子さんや家族の支援をしていく
3	療育のための部屋が複数あることで、年齢や状況に応じてクラス編成ができる。園庭を使って、毎日屋外で体を動かす活動ができる。	固定した部屋を使うだけでなく、あそびの内容や状況に応じて適した部屋を使うことで、子どものよりよい環境を提供している。子どもにとって屋外あそびは重要と捉え、成長発達の大切な要素を確保している。	さらに使いやすい部屋の環境を整えていく。園庭の遊具の定期的な点検を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年度途中で利用したい方を受け入れることができないときがある。	1日長時間の開所をしている事業所が圏域に少ないため、希望しても待機となってしまうことがある。	クラス編成や曜日による人数を調整しながら、なるべく希望したときに利用が開始できるようにしていく。
2	きょうだい児のための行事が少ないこと。地域の園や事業所との交流が少ないこと。	家族行事は複数回実施しているが、きょうだい児に的を絞った活動に難しさを感じている。保育所等訪問支援で園を併行利用している子が多い。	自園だけで考えるのではなく、圏域で協力して行事を企画したり、行政にも相談してどのようにしたら実行できるかを検討していく。
3			